

組織化についての問題

討議に先きだち「第七回中央教化研究会議宣言」を一緒に読み、そこに提示された問題点について確認をした。

組織化という点について現実の問題となるのが各教師の遠忌に対する意識の相違である。例えば、すでに遠忌事業を済ませた寺院の中の一部に於ては今後の遠忌計画に対する受けとめ方が違う。又、本堂・庫裡の新改築のみを遠忌事業としている。又、檀信徒の遠忌に対する無理解（教師の布教姿勢とも関係）による寺院間の遠忌事業への取り組み方の相違等、意識の相違について今後何らかの解決策を見つけて出さねばならない。反対にすでにこういう教師の自覚にかかわる問題は何度も出されておき、今後再び取りあげる時間的余裕はないという意見もある。現時点では自覚のある者が中心となつて実践して行くことが第一であり、その中で自覚の向上について常に他へ働きかける必要があると言えよう。その場にも組織的教化活動の実践が大切であることが認識

第二分科会まとめ

テーマ

「報恩教化の組織的

実動について」

田 沢 元 泰

座 長 石田良正

発題者 新聞智照 石井錬昭 岩堀豊種

第二分科会では「第七回中央教化研究会議宣言」（昭和四十九年）を具体化するという問題をふまえて教師各自がバラバラではなく組織化された教化活動を実践するためにどうしたらよいかという点について話し合った。

された。

年令別教化について

遠忌を迎えるにあたり教化活動をいかに進めるかについて石井鍊昭師より統一信行を中心とした信行会活動に於ける実践例をもとに発題があつた。特に年令別教化カリキュラムを作成し、綿密な布教をしなければならぬ。又人生相談や家庭生活に利用出来る教箋の作成によつて家庭の内に働きかける、などの問題点が出された。

次に岩堀豊種師より婦人教化についての発題があつた。家庭の中心とも言える主婦の悩みも年令に依り、結婚、育児、教育、嫁姑、老人疎外、老後の問題等と各種にわたり、若い層にとつては話し合える雰囲気を作ることが大切である。これ等をふまえやはりカリキュラムの作成が必要といえよう。

次に青少年について話し合われた。子供会を催し、子供を集めることが第一であり、理屈よりも形から指導した方が効果的であり、テキストについても大きな活字を使用する。カットを豊富に入れる等の

工夫も必要である。青年層については、子供会等のリーダー的存在として参加させ、お寺とのコミュニケーションを計ることも大切なことである。又、テキストについても個人的にいろいろ作成しているケースもあるが、これらを参考に更に各方面からの検討をふまえ宗門からも作成してほしいとの要望があつた。

老壮年については祈禱・参拝旅行などから人集めをはかり、先にもふれたごとく信行会活動へとリードしていかなければならない。

文書布教

文書布教について井本学雄師からハガキ伝道を中心とした話があつた。内容は平易に時には通仏教になるのも止むを得ない、いろいろな機会を利用して教箋等の発行をしている事を知らせ、関心ある人を一人でも多くつかむ。寺報は檀信徒の情報を入れること。反応を云々言う前に継続して発行することが最も重要といえる。「教化の友」等の利用によつてお互いに情報、資料の交換が大きな助けになる点

も確認された。

教化センター

教育センターについてはすでに実動している近畿教化センターの実状について新聞智照師からの報告があつた。このセンターは年に一回の教研ではさほどの交流が出来ないということから設立された。近畿教化センターを神戸に置き又事務所や教研運営委員など各管区ごとにセンターが置かれている。実際に問題となるのは人材の点で、金銭的に保障も必要となるし、個人的な活動では限界がある。有志と資金を出し合うとか、地域的な運動として協力して行くことが是非とも必要である。又地方の教化センター（これは建物という意味だけでなく、組織的に活動している人材があるということも含まれる）をつくり、中央とのパイプ役、各地域との交流をはかることが重要といえる。いづれにせよ地域の実状にそくした形でセンターをつくり、片手間にやるのではなく、専任者が置ける程度にまで組織化をしてゆく必要があるといえよう。それは先にも出されたよう

に、教化カリキュラム、教箋の作成等の地域の教師からの要望に応じた活動も可能となるわけである。又、これら地域の情報を中央で整理、活用すべく是非とも中央教化センターを作るようにとの要望が出された。

○ 要望

地域教研の積み重ねに努力し、その成果を有意義なものにする為にも、中央教化センターを作ることを要望致します。